

# 家庭・地域・企業の 成長戦略のキモ ―ワーク・ライフ・バランス―

「エセナフォーラム」は男女共同参画

社会の実現のために、男女共同参画週間(6月23日～29日)とほぼ同時期に行うエセナおたのイベントです。2014年は7月5日(土)～6日(日)にかけて行いました。初日はワーク・ライフ・バランスの第一人者である渥美由喜さんに登壇いただき、ご自身の育児や介護の経験と企業調査の結果から、これからの社会や企業にとって、いかにワーク・ライフ・バランスが重要であるかをお話いただきました。

## Profile

**渥美 由喜 さん**  
(あつみ なおき)

内閣府少子化危機突破  
タスクフォース政策推進チームリーダー

1968年生まれ。東京大学法学部卒。専門は、労働雇用・企業経営(ワーク・ライフ・バランス、ダイバーシティ、アウトソーシング)、日本及び欧米諸国の人口問題(少子化対策など)。内閣府「少子化社会対策推進会議」「ワーク・ライフ・バランス官民連絡会議」委員、経団連、日本商工会議所の審議会委員など多数の役職を歴任し現在に至る。企業や自治体へのコンサルティングを積極的に行い、講演会も多数実施している。自身も現在子育て・介護と仕事の両立に奮闘中。「ムダとり時間術」「イクメンで行こう! 育児も仕事も充実させる生き方」他著書多数。



Photo

## ワーク・ライフ・バランスは 経営戦略の要

「ワーク・ライフ・バランス」とは仕事上の責任を果たしつつ、仕事と仕事以外の生活(育児や介護、自己啓発、地域活動など)を希望するバランスで行うことができる状態を言います。私たちの人生は、何が起きるか分かりません。その時に仕事も生活も諦めない生き方、それがワーク・ライフ・バランスです。そのため、単に仕事を抑えて生活を充実させるとか、仕事と生活のバランスを半々にするというものではありません。

また、日本ではワーク・ライフ・バランスは女性活躍と結びつけて考えられる傾向にあります。必ずしもそれだけではありません。なぜなら、これから日本社会が迎える介護ラッシュ、人口減少による労働力不足は男女問わず皆が直面する問題だからです。

現在、570万人いる介護者の過半数が働きながら介護しており、そのうち40～50代が約6割を占め、その4割が男性といわれています。

私が調査したところ、社員の平均年齢が40歳前後の会社では、今の時点でも介護者は1割を越えています。やが

て3人に1人が要介護者を抱えながら働く時代がやってくるのです。

職場にとっては、介護と仕事の両立は大きな経営課題となってきます。ワーク・ライフ・バランスは、それを乗り越えるためのリスクマネジメントとして考えることができると思います。また、人口減少社会では人材の奪い合いとなります。差別化をして働きたいのある職場を作ることができれば、優秀な人材を確保することもできます。そういう意味で、ワーク・ライフ・バランスは業績向上、経営戦略を考える上でもとてもメリットのある取り組みなのです。

## 女性から広がるダイバーシティ

ワーク・ライフ・バランスを実現する時に鍵となるのが、多様性・多面性を意味する「ダイバーシティ」です。多様な人を受け入れること、また、それぞれの多面性を受け入れて、お互いに活かしかうことが必要になります。私は、女性が活躍できない社会は、社会的少数派、いわゆるマイノリティの居場所もないと考えています。男性ばかりの職場で女性の活躍の場を増やすことは多様性を受け入れる方法の一つです。